富士登山者の満足度の登山口別比較

A comparative study of climbers' satisfaction classified by use of trailhead at Mt. Fuji

山本 清龍*

Kiyotatsu YAMAMOTO

Abstract: Mt. Fuji has 4 major paths to the top and most climbers use 4 trailheads located at the mid-slope of the mountain (5th step) presently. It goes without saying that climbers' experience on 4 routes differs. In order to have climbers deeply satisfied with climbing experience, it is important to clarify the quality of experience and the attractiveness of route and to convey the information of them to potential climbers who have willingness to climb. This study aimed at evaluating the quality of climbing on the routes by using indicators of satisfaction level and employed a questionnaire survey. In concrete terms, the purpose of this study is 1) to grasp the characteristics of climbing on each route, 2) to evaluate the quality of climbing on the routes through climbers' satisfaction classified by use of trail head and 3) to make clear the relationship between the attribute of climbers and the satisfaction level. As a result, satisfaction level with some expectations related to landscape from the route, rural beauty and solitude and others differed. In other words, differences of the quality of climbing existed on 4 routes at Mt. Fuji.

Keywords: Mt. Fuji, climber, satisfaction, trailhead, attribute

キーワード: 富士山, 登山者, 満足, 登山口, 属性

1. 研究の背景と目的

富士山には主要な登山道が4つあり、大半の登山者が中腹に位置する五合目あるいは新五合目と言われる登山口から登山を開始する。五合目近辺を散策し六合目まで足を延ばす観光客もいる一方で、登山者はほぼ例外なく頂上を目指し、独立峰の山であることも手伝って目的地が頂上の一点に集中することがこの山の特徴である¹⁾。当然のことながら、各登山口の立地や登山道の自然環境が異なるため体験には差異があり、加えて、トイレや登山道の管理の状況、登山者同士の軋轢の有無によっても登山体験の質は左右される。それゆえ、自然環境特性の差異を含め登山者が自身の体験をどのように評価しているかを把握する必要があるが、現状では、4つの登山道間の登山体験の差異は不明である。いたずらに期待阻害を招かないためにも登山者の体験の質の差異を明らかにし登山者に伝えることが必要である。そこで、本研究では、自然公園における登山利用をとりあげて、満足度の指標を用いて各登山ルート間の体験の差異について検討することを企図した。具体的には、①登山ルート別の利用特性を明らかにすること、②各登山口の利用者の満足度から、それぞれの登山ルートの体験の評価を行うこと、③登山者属性が満足度にどのように関連しているかを明らかにすること、の3点を目的とした。

ここで、登山が利用形態の主となる自然公園を例とし満足度の概念について整理しておく。登山者は、公園が持つ魅力に応じて体験できることを想定し、ある程度、現実的な期待を持って公園を訪れる。登山者は、満足と不満は期待との相対関係の中で位置づけられ、公園体験によって期待が充足されれば満足となり、期待の充足が未達成に終われば不満として顕在化する²⁾。すなわち、本研究では、期待の充足度(=満足度)の指標を用いて登山者の体験の質を把握することにつとめた。

既往の知見として、期待、満足の指標を扱い検討した研究成果は少なくない。たとえば、自然体験サービス施設として国営公園をとりあげて訪問者の属性や提供されているサービスの評価を把

握したもの³⁾があり、満足に関しては、公園研究において満足を取り扱うことの意義や問題点を整理したもの⁴⁾がある。一方、人の行動と経路に関する知見は都市計画分野⁵⁾や観光分野⁶⁾に蓄積がある。しかし、意外なことに、自然公園のような野外空間の利用経路と満足の関係を明らかにした成果は見あたらない。近い研究成果として、登山者の期待と登山経路の関連性を検討したもの⁷⁾があるが、経路ごとの登山体験の評価にまでは至っていない。

2. 研究方法

(1) 研究対象地

すでに触れたとおり、研究対象地は富士山である。富士山は独立峰であるため登山者の目的地は唯一の山頂に集中するが、その頂上に到達する主要な登山道が4つある(図-1)。古くは、登山口が浅間神社の社殿の隣接地など一合目よりも標高の低い場所にあったが、五合目まで道路が敷設され駐車場が整備されたことで、事実上五合目が登山口として機能しており、本研究でも登山口は五合目、新五合目を指すこととする。4つの登山口についてみると、南麓の静岡県に登山口を持つものとして西側から順に富士宮口、御殿場口、須走口の3口があり、北麓の山梨県に登

図-1 富士山全体図

*東京大学大学院農学生命科学研究科

山口を持つものとして吉田口（河口湖口）がある。年変動が多少あるが、平成20（2008）年を例にとると、登山者数が多い順に吉田口（7,8月のみで247,066人、全体の57%）、富士宮口（136,574人、31%）、須走口（46,192人、11%）、御殿場口（4,078人、1%）である⁸⁾。近年は、富士山ブームともいえるほど登山者数が急増しており⁹⁾、岩場や崖での行列が将棋倒しになる危険性を高め登山者の安全や安心を脅かしていること、登山道の渋滞によって混雑不快感が増大する心理的な負の影響が懸念されている。

（2）調査手法

富士登山者の属性と意識、とくに満足度の把握を意図して、平成21（2009）年8月12～24日の期間に、平日4日（月水木金）と週末2日（土日）の計6日間、郵送回収式のアンケート調査を実施した。調査地は主要な4つの登山口とし、調査への協力依頼に対し同意を得ることができた18歳以上の下山者に対して調査票の入った封筒を手渡し、帰宅後に記入して投函してもらった。また、下山者の中にはもともと散策を目的として頂上を目指さずに六合目で引き返す日帰り観光客も含まれるため協力依頼前に確認して該当者を除外した。それゆえ、本研究で対象となった被験者はすべて頂上を目指した登山者である。

（3）アンケート調査票の構成と分析方法

調査票には年齢や性別、住所の基本属性のほか、交通手段（複数回答）、登山回数、登山日程、ガイド同行の有無、グループの人数と構成（複数回答）、登頂の可否の登山特性を把握する項目を設けた。その上で、既往研究¹⁰⁾を参考に、まず、富士登山者の期待を[1]公園資源の享受、[2]野趣性・独居性の保持、[3]適切な対人関係の構築、[4]情報や施設の円滑な利用、[5]清潔・快適な空間の利用、の5つの期待に分類し、それぞれの期待に対して3～6の指標を設け23の指標を作成した。また、登山体験の全体の評価を得るため総合満足度の指標を加え、合計24の指標に対して期待の充足度を測る11段階（0から10点）の評価尺度を設け、4つの登山道における体験の満足度の質問項目を設定した。なお、本研究で扱う満足度については各評価点の度数分布を確認し、正

表－1 回答者の属性

属性	登山口	富士宮	御殿場	須走	吉田	合計
年齢	10代	0	2	0	1	3
	20代	30	7	23	36	96
	30代	33	9	20	27	89
	40代	31	11	7	16	65
	50代	31	7	10	20	68
	60代	15	3	5	16	39
	70代	7	0	0	5	12
性	男	95	28	41	62	226
	女	52	11	24	59	146
住所	北海道	0	0	0	0	0
	東北	4	0	0	1	5
	関東	56	16	46	63	181
	北陸・甲信越	10	1	3	9	23
	東海	65	13	11	13	102
	近畿	8	6	4	27	45
	中国	1	1	0	4	6
	四国	1	0	0	0	1
	九州	2	2	0	4	8
交通手段 *	マイカー	111	21	45	39	216
	公共交通	48	22	18	24	112
	ツアーバス	8	0	0	72	80
登山回数	初めて	58	19	30	77	184
	2-3回	55	14	22	30	121
	4-9回	25	5	9	10	49
	10-19回	7	1	3	1	12
	20回以上	2	0	1	3	6
	登山日程	0泊	57	14	42	23
1泊		88	25	23	97	233
2泊		2	0	0	1	3
ガイド	全部同行	12	0	0	46	58
	一部同行	0	0	0	14	14
	同行なし	135	39	65	60	299
グループ 人数	1人	15	12	5	13	45
	2人	26	9	24	37	96
	3-5人	58	17	23	33	131
	6-9人	28	1	11	7	47
	10人以上	19	0	2	30	51
グループ 構成*	夫婦	17	4	9	23	53
	家族	32	9	10	30	81
	カップル	12	1	8	17	38
	友人	62	9	27	48	146
	同僚	40	4	11	18	73
登頂	達成	121	33	53	96	303
	断念	25	6	12	25	68
合計(人)		148	39	65	121	373

注) 有効回答数=373。各カテゴリーの総数と有効回答数の差は無回答を表す。ただし、交通手段とグループ構成は複数回答(*)。数字に付した下線とグレーの色は、カイ2乗検定によって有意(p<.05、とくに太字はp<.01)。

図－2 登山口別にみる登山者の満足度の平均

表－2 登山口別の各指標の平均値と分散分析の結果

期待	指標	富士宮 (n=110)	御殿場 (n=23)	須走 (n=49)	吉田 (n=91)	主効果 (P)
[1] 公園資源	頂上へ到達	8.391	9.174	8.531	8.516	0.670
	体験談や解説	4.273	4.478	3.857	4.692	0.256
	動植物	6.273	6.261	5.959	5.549	0.230
	景観風景	7.582 b	8.696 a	8.449 a	8.582 a	0.002 **
	環境配慮登山	7.127	7.000	7.449	7.110	0.809
[2] 野趣性・独居性	精神面の成長	7.782	6.957	7.286	7.923	0.162
	少人数	8.273 a	8.609 a	7.878 a	5.692 b	0.000 **
	静かに登山	7.236 ab	7.957 a	5.959 c	6.374 bc	0.002 **
	混雑がなかった	4.664 b	6.870 a	2.837 c	3.110 c	0.000 **
	ペースの配分	8.045	8.652	7.878	7.692	0.334
[3] 適切な対人関係	交流	5.773	5.870	5.102	5.341	0.345
	話らい	8.200	8.478	8.327	8.484	0.748
	マナーが良いこと	6.764 a	6.739 a	4.776 c	5.901 ab	0.000 **
	指導助言	4.291 b	4.913 ab	4.551 ab	5.484 a	0.022 *
	道の整備	6.491 b	8.174 a	7.041 ab	6.978 ab	0.030 *
[4] 情報や施設	道標	6.582	6.696	6.388	6.418	0.920
	装備が十分	7.555	8.391	8.245	7.934	0.232
	施設の整備	5.655	6.609	5.571	5.692	0.360
	解説板	4.773	4.565	3.796	4.396	0.102
	安全	8.409	9.391	8.347	8.451	0.140
[5] 清潔・快適	安心	7.445	8.478	7.327	7.560	0.168
	ゴミが少なかった	7.127 a	6.870 ab	5.592 b	7.121 a	0.004 **
	トイレが快適	5.982	6.652	5.347	5.088	0.028 *
総合満足		7.945 ab	8.609 a	7.469 b	8.143 ab	0.017 *

注) 11段階評定(10点満点)で数値が大きいほど満足度が高く、同じ添付文字が付いた数値間では有意差なし。また、添付文字が付いていない指標では4つの登山口で有意差なし。分散分析の主効果については*: p<.05、**: p<.01、多重比較検定はTukey's HSD testによる。(N=273)

規分布すると仮定した上で分析を行った。

3. 結果と考察

（1）回答者の属性

4つの登山道の評価の差異を明確にするため、登山と下山で異なる登山口を利用した回答者2人を除き同じ登山口を利用した回答者を解析対象とした結果、有効回答は373、調査票の配布数1,145に対する回収率は約32.8%となった。

表－1は回答者の属性である。まず全体でみると、年齢は20代が最も多く30代と合わせると全体の約半数を占め、性別では男性が約6割と女性よりも多かった。誘致圏は広く関東地方からの登山者が約半数、次いで東海地方からの登山者が約3割であり、交通手段はマイカーが約6割を占めた。また、富士登山の回数は約半数が初めて、登山日程は約6割が1泊2日であった。さらに、約8割の登山者はガイドが同行しない登山形態であり、グループ人数は3-5人が35%、友人同士の登山が約4割で最も多かった。最後に登頂は、約8割の回答者が成功しており、残りの約2割の

表－3 回答者の属性と満足度の関係

属性	年齢	性	交通手段	登山回数	登山日程	ガイド	グループ人数	グループ構成	登山	満足指標
期待	20代	男	マイカー	初めて	0泊	全部同行	1人以上	夫婦	達成	満足
満足指標	50代	女	ツアーバス	2～3回目	1泊	一部同行	2人	友人	達成	満足
公園資源の享受	頂上へ到達				+					+
	体験談や解説	—		+	—	+	—			—
	動植物						+			
	景観風景		—	+						
	環境配慮登山			+			+			
野趣性・独居性の保持	精神面の成長		—	+						+
	少人数			+	—	—	+	—		—
	静かに登山									
適切な対人関係の構築	混雑がなかった					—	+	—	—	—
	ベースの配分					—	+			+
	交流									—
	語らい									—
情報・施設の円滑な利用	マナーが良いこと				—	+		—		—
	指導助言		—	+	—	+	—	+		—
	道の整備	—				+				
	道標	—								
清潔・快適な空間の利用	装備が十分	—								
	施設の整備									
	解説板	—	+			+				
	安全				—	+				
総合満足	安心	—	+		—	+	—	—		—
	ゴミが少なかった									—
	トイレが快適	—					—	—		+

注) 数量化Ⅰ類分析における単相関と検定結果をもとに一覧を作成。「+」は評価を向上させ「—」は評価を低下させる傾向にあることを示す (p<.01)。(N=342)

回答者は途中で断念していた。

(2) 登山口別に多い回答者属性

次に、登山口別にみると、富士宮口は他の登山口に比べて関東地方の居住者が少ない一方で、東海地方の居住者が多く利用し、マイカー利用者が約7割で多かった。また、初めての登山者が少なく、ガイドが同行しない登山形態が多かった。グループ人数は6-9人が最も多く、会社の同僚によって構成されるグループが多かった。御殿場口は、相対的に公共交通の利用者が多く、富士宮口と同様にガイドが同行しない登山形態が多かった。須走口は20代の登山者が多く、関東地方から来訪してこの登山口を利用した回答者が多かった。また、マイカーで来訪し、山小屋に宿泊しないで登る日帰りあるいは夜行登山の形態が多く、ガイドが同行せず、2人で登山をする形態が多いことが特徴的である。最後に吉田口は、他の登山口よりも、女性の登山者が多く、近畿地方からの利用者が多かった。また、ツアーバスの利用者が多いことを反映してグループ人数も10人以上が多かった。さらに、初めてや2-3回目の比較的登山経験の少ない登山者層が多いこともこの登山口の利用者の特徴である。そのほか、登山日程は1泊2日が多く、ガイドが全部あるいは一部の行程で同行する登山形態が多かった。

(3) 登山に対する満足度

回答者全体で最も高い満足度を示した指標は「安全に登ることができた」というものであり平均値は8.59だった。反対に、期待が阻害され最も低い満足度を示した指標は「面白い話や体験談、解説を聞くことができた」というものであり平均値は4.27であった。5つの期待ごとにみると、[1]公園資源の享受の期待では、「頂上まで到達することができた」(平均値 8.55)、「素晴らしい景観、風景を見ることができた」(8.19)の充足度が高いが、既にふれたとおり「体験談や解説」については、ガイドや山小屋との交流が少ないため満足度が低かった。[2]野趣性・独居性の保持の期待では、「少人数で登山できた」(7.44)がやや高い一方で、「混雑を感じることなく気持ちよく登山できた」(4.33)は低い値にとどまった。[3]適切な対人関係の構築の期待では、「一緒に登った家族や友人と語ることができた」(8.35)の指標が高い評価を示したが、反対に「山小屋や他の登山者から登り方について指導、助言をもらった」(4.72)の評価は低かった。[4]情報や施設の円滑な利用の期待では、「自分の登山への装備や悪天候への備えが十分

だった」(7.96)がやや高い満足度だった一方で、「道の標識(案内板)がよく整備されていた」(4.54)が低い満足度として評価された。最後に、[5]清潔・快適な空間の利用の期待では、すでに触れたとおり「安全に登ることができた」ことが高い満足につながっていたが、「トイレが清潔、快適だった」(5.77)という指標においては高い評価を得られていなかった。

(4) 登山口別の満足度の差異

24の指標について登山口別の満足度の差異を明らかにするため、分散分析(Tukey's HSD test, $p<.05$)を用いて多重比較検定を行った(表-2)。その結果、まず、[1]公園資源の享受の期待では、吉田口を利用した回答者の方が富士宮口を利用した回答者よりも「景観・風景」を高く評価していることが明らかとなった。理由として、吉田口は4口の中で最も東側に位置し、反対に富士宮口は4口の中で最も西側に位置することから、登山道からの景観の差異に加えて、御来光を見る際の立地の良さが評価の差異となって表れたと考えられる。次に、[2]野趣性・独居性の保持の期待では、利用した登山口間で3つのすべての指標において満足度に差異が見られ、概して、吉田口では「少人数」で登山できなかったこと、「静かに登山」できる状況ではなかったこと、「混雑」があったことにより評価が低いことが明らかとなった。反対に、御殿場口ではそれらの指標で評価が高く、そのほかの富士宮口と須走口の評価は中間に位置していた。先述のとおり、吉田口からの登山者数が多いのに対し御殿場口の利用者は少なく、このことが野趣性・独居性の保持に関わる満足に影響を及ぼしていると考えられる。[3]適切な対人関係の構築の期待では、「マナー」と「指導・助言」において登山口間に差異が見られ、富士宮口や御殿場口でマナーの良さが評価されているのに対し、須走口で評価が低くなっていた。また、吉田口は富士宮口よりも「山小屋や他の登山者から登り方について指導、助言をもらった」ことが満足につながっていた。須走口が他の登山口よりもマナーが悪いと評価を受けることに対し理由を求めることは難しいが、須走口の登山者層に20代の若年層が多いこと、夜行登山を含め山小屋に宿泊せずに登頂を目指す登山者が多いこと、ガイドが同行しない登山者が多いこと、これらのことがマナーの低下を招く原因になっていると考えられる。そのほか、[4]情報や施設の円滑な利用の期待では、「道の整備」において御殿場口が富士宮口よりも高い評価を得ていた。[5]清潔・快適な空間の利用の期待では、「ゴミ」が少なかったことについて富士宮口と吉田口が高い評価を受けているのに対し、須走口ではそれら2口よりも有意に評価が低かった。最後に、総合満足度では、御殿場口が須走口よりも有意に高かった。

(5) 登山者の属性と満足度の関係

前節の分析により、各登山口の利用者の登山体験の評価の差異を明らかにしたが、その評価の差異が歩いた登山道の自然的、社会的特性によるものと即断することはできない。というのも、年齢や性別などの基本属性、登山回数や登山日程などの登山特性そのものが評価に対する一定の影響を及ぼしていると考えられるからである。そこで、登山者の属性と24の指標がどのような関係を持つかを明らかにするため、数量化Ⅰ類分析を通して、属性と満足度の単相関について有意なものを把握した。表-3は、表-1で扱ったすべての属性と24の満足指標の関係を、高い満足評価を示す属性と、低い満足評価を示す属性に区別して、有意なもののみを一覧として整理したものである。

まず、基本属性の年齢からみると、20代の若年層では「体験談や解説」、「安心」や「トイレが快適」といった指標で評価が低く、

[4]情報・施設の円滑な利用の期待に関わる多くの指標で評価が低下していた。また、50代の中高年齢層では「解説板」や「安心」の指標で評価が高くなっていた。さらに、性別では男性よりも女性で「景観風景」「精神面の成長」の満足が高くなっていた。

次に、登山特性を交通手段から順にみると、ツアーバスで満足度が高くなる傾向があるほか、ツアーバスを降りて団体行動をとる行動特性を反映して「少人数」で登山できたことに対する満足が低下していた。反対に、マイカー利用者は「少人数」の満足が高かったが「安心」感が低下していた。登山回数では、初めての登山者で「少人数」「安全」「安心」の満足度が低下するのに対し、2-3回目の登山者で「少人数」の満足度が高くなっていた。登山日程では、山小屋に宿泊しなかった登山者で満足度が低下する項目が数多くあるのに対し、山小屋に1泊した登山者は多くの指標で満足度が高くなる傾向がみられ顕著な差異があることが明らかとなった。そのほか、2泊した登山者では「ペースの配分」で満足が低下しており、ペースが落ちていないかなど登山行程に検討すべき課題のあることが示唆された。ガイドの有無では、全ての行程でガイドが同行する登山形態で「体験談や解説」を聞くことができた、「環境に配慮した登山」ができたことに対する満足度が高く、ガイドの解説や指導の効果があらわれているとみることができる。しかし、「少人数」「混雑がなかった」の指標で評価が低下しており、ガイド同行登山が団体であること、行動の自由度が相対的に低いことに起因して野趣性や独居性が低下している可能性を指摘できる。一方、ガイドが同行しない登山形態では、全行程でガイドが同行する登山形態と比べて対照的な評価を行っており、加えて、「安心感」や「総合満足度」が低下していた。グループ人数では、1人の登山者で評価が高くなる指標が複数あり、「動植物」を見ることができたこと、「自然環境への影響が少ない登山をすることができた」（環境配慮登山）ことに対する満足度が高かった。また、「少人数」の登山や良い「ペース配分」で登ることができたことに対する満足度も高く、行動の自由度の高さもうかがえる。また、2人の登山者では「トイレが快適」であることについて満足が低下していた。そのほか、10人以上の登山者では、「少人数」の満足度が低下し、登り方に関する「指導助言」が満足度を向上させていた。グループ構成では、カップルと友人、同僚のグループでは「混雑がなかった」の満足度が低下し、夫婦では、「マナー」の評価が低下していた。一方、カップルでは「安心」して登山できたこと、「トイレが快適」であることが不満として現れており、トイレの整備水準に関する情報や安心感を提供する取り組みも望まれる。最後に、登頂の成否による差異についてみると、登頂を果たした登山者で「頂上へ到達」「精神面の成長」「ペース配分」の満足が高かった。反対に、途中で登頂を断念した登山者では、これらの3つの指標で満足度が低下しており、登頂未達成の一つの要因を自身の精神面だけでなくペース配分の拙さにも求めている様子がうかがえる。そのほか、登頂の成否によって「ゴミが少なくよかった」ことに対する満足度に差異がみられた。登頂を断念した登山者が頂上に到達していないということを考慮すると、評価の差異の理由として頂上付近にゴミが多かった可能性を指摘できる。

4. まとめ

研究結果から、登山口によって富士登山者の属性には違いがあり、登山口ごとにいわば個性があることが明らかとなった。また、利用する登山口によって満足評価にも差異があること、属性によって満足評価が異なることが明らかとなった。ここでは、研究成果を4つの登山口の登山特性と満足の観点から総括し、同時に、管理・計画上の課題についても整理する。

静岡側の3口の中で最も登山者数が多く東海地方からの玄関口

として機能している富士宮口では、マイカーでアクセスしガイドが同行しない登山者が多かった。また、同僚で構成され6-9人の中規模のグループが多かった。とくに、マイカー利用者とガイドが同行しない登山者では、指導助言を受ける機会が少ないこと、安心感が低下することによって満足が低下しており、登山者に介入し安心感を提供していくことが求められる。次に、4口の中で最も登山者数が少ない御殿場口では、公共交通を利用しガイドが同行しない登山形態が多かった。この登山口を利用した登山者は、総合的な満足を含めて多くの指標で評価が高く、4口の比較の中で言えば質の高い登山体験を享受できる登山口といえる。しかし、前述のとおり、ガイドが同行しない登山形態では、体験談や指導、助言を聞く機会が少なく、総合的な満足が低い傾向にあるため、登山者の機動性を維持するとしても、さらに良質の登山体験の提供について検討する余地があるといえる。その御殿場口に次いで登山者数が少なく、関東地方からマイカーで利用される須走口は、20代の登山者が多く、ガイドが同行せずに、日帰りあるいは夜行登山を行い、グループの規模が2人と比較的小さなグループを作っていた。須走口で顕著にみられた属性の登山者は、ほとんどの指標で満足評価が低く、総合満足度も御殿場口より有意に低く、登山体験を改善する余地は大いにある。とくに、登山者層に20代の若年層が多いこと、夜行登山を含め山小屋に宿泊せずに登頂を目指している人が多いこと、ガイドが同行しない登山者が多いことを考慮すれば、現地において登山者と接点を持つことは難しく、年齢層に合わせて適切なメディアを通して情報提供することが望まれる。最後に、4口の中で最も登山者数が多く、関東地方だけでなく近畿地方からの登山者の玄関口になっている吉田口は、女性が多く、ツアーバスの利用者、初めてあるいは2-3回目の相対的に登山経験の少ない登山者が多かった。また、ガイドが同行し、10人以上の大きなグループを形成し、1泊2日の行程で登山する人が多かった。この登山口に多い登山者属性は、多くの指標で満足度が高くなる傾向があるものの、登山する際のグループの大きさや混雑に関わる指標で満足が低下しており、人の多さが大きな問題である。また、初めての登山者は、安全、安心に関わる指標で満足が低下しており、登山方法やリスクとの向き合い方など初心者むけの情報提供の機会が期待される。

最後に、本研究は静岡県戦略課題研究（2008-2009年度受託研究）として実施したものであり、関係各位のご理解とご協力に感謝する。また、研究結果をまとめるにあたり静岡県観光政策課、富士吉田市富士山課には貴重な資料を提供して頂いた。ここに記してお礼を申し上げる。

引用・参考文献

- 1) 山本清龍 (2009) : 山岳観光の動向—富士登山 : 山林 1505, 58-65
- 2) 山本清龍 (2006) : 自然公園における利用者数が利用者の期待に及ぼす影響に関する研究 : 東京大学博士論文, 1-11
- 3) 岩谷祐子他 (2008) : 自然体験サービス提供施設としての国営木曽三川公園に対する利用者評価に関する研究 : ランドスケープ研究 71 (5), 623-628
- 4) Manning, Robert E. (1999) : Studies in outdoor recreation : Oregon State University Press, 374pp.
- 5) たとえば、牧大佑他 (2008) 散歩に適した空間整備がなされた地区における散歩行動の実態と散歩経路変化に関する研究 : 都市計画論文集 43, 409-414
- 6) たとえば、西井和夫他 (2003) 観光地エリアイメージと行動特性に基づく歩行者系回遊空間整備方法—京都洛東エリアを対象として : 観光研究 14 (2), 37-45
- 7) 小林昭裕他 (213) : 大雪山国立公園の登山者が来訪動機の充足を期待した区域と登山経路 : ランドスケープ研究 58 (5), 213-216
- 8) 静岡県観光局 (2008) 富士山への登山者数の状況、富士吉田市富士山課 (2008) 富士山登山者調べ
- 9) 読売新聞 (2010) : 富士山ブームで苦悩, 8月31日
- 10) 山本清龍 (2007) : 自然公園利用者の富士登山に対する期待と期待阻害 : 環境情報科学論文集 21, 129-134